



第46号

平成22年8月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
0478(52)1000

町並み保存も二十年を迎える

「三つの思いをどう貫くか」

NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会
高橋賢一理事長に聞く

佐原の町並み保存の取り組みは、昭和六三年「ふるさと創生事業」のアイデア募集がきっかけとなり、平成三年一月に地域住民二十名によって始められました。その成果は目に見える形で現れてきましたが、以来二十年を経て、私達は保存運動をさらに一歩前進させるには今どうすべきかを、NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の専任理事理事長にうかがいました。

「町並み保存」の選択

町並み保存の取り組みが始まり「町並み保存」の目的を次の三点に定めました。

- ① 住環境と文化を守る。
 - ② まちづくりに活かす。
 - ③ 子供や孫に資源を残す。
- (問) それぞれについて詳しく説明して下さい。

まず第一に言えば、昔からの町家は周りに配慮した建物を建ててきました。こ

のことが住環境の良さにつながっています。地域社会を優先にするこの考えや生活が佐原の文化です。勿論、祭りもこの延長にある文化です。この佐原らしい生活や文化を守り続けるには「町並み保存」が有効と考えました。次に第二の点ですが、この地域は商業地ですが、今の店舗面積での営業には品揃え等

に無理があり、再興は難しいと感じました。皆がセフトバックし共有ビルを建て、古い駐車場を完備することが難しいなら、一建物を保存して人を呼ぶ。先進地にあるようなまちづくりが可能であると考えたのです。(飛騨富加や、越前がよい例です) 第三点について、例えば、次の世代がここの佐原で生活を立

小野川清掃おこなわれる 「平成百景」選定にこたえて

佐原の町並みが、読売新聞の「平成百景」に選定されたのを記念して、さる五月二日(土)の午後、小野川清掃が行なわれました。

読売新聞の呼びかけに四十名余の方々が集まりました。忠敬橋から開運橋までの小野川兩岸と石垣の雑草取り、川底をさらうという大規模なものとなりました。



クリーン作戦の旗を揚げ、多数の参加者が協力

てるのは先が見えない状況がありました。子供や孫が安心して生活できる基盤づくりが必要と考えて「町並み保存」を提唱したのでした。

以上の考えをまとめた本会は、地域住民や、市民、行政に働きかけ、今まで活動を続けてまいりました。

早いもので、二十年を迎えました。



香取街道のにぎわい

その結果はどうか

(問) 二十年後の今の状況については

現在、この地域への来訪者は五十万とも六十万人ともい

われています。人が沢山訪れるようになったと町に変化が現れはじめました。起業をしたり、商売の内容を替えたお店が五十店近くにもなっております。観光客を見込んで大きなレストランもオープンしました。

「町並み保存」の取り組みが経済効果を生んだ証拠と考えています。

佐原の風情はどうなる

(問) このような変容について何かご感想は

佐原の町並みは、マスコミ等に好意的に紹介され、沢山の観光客を集めてきました。観光シーズンの土・日曜日には、交通渋滞を起すまでもなりましたが、人が増えるにしたがい町の様子に変化が見られます。

佐原の「町並み保存」の一つの節目を迎えているように思えるのです。佐原が長年培ってきた一番の売り物である「風情」が薄まったり壊されないように皆で見守ることが大事です。「来てよかった」と思える佐原に



小野川兩岸のにぎわい

全国町並み保存連盟の事務局長として

(問) これから益々お忙しいと思いますが

今年から、全国町並み保存連盟の事務局長を拝命しまし

た。連盟とは、昨年佐原で行なわれた全国町並みゼミ大会の主催団体です。本部に行きますと全国各地のエネルギッシュな活動の情報が入ってきます。これらの事例を佐原の町並み保存の運動に取り込めたいと考えています。

町並みは「保存」から「まちづくり」にシフトしていただいています。佐原の重伝建地区の高齢化率は40%を超えていることを考えると、経済の基盤づくりがこれからの最重要課題になってくると思います。

DVD制作快調に

先年度末より開始されたDVDの制作が順調に進められています。小・中学生の事前学習用と観光客用に佐原の三つの宝を解説する内容となっています。



20年誌の発刊

NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」は町並み保存の取り組み二十周年を期して「二十年誌(まちづくり二十年の歩み)」の編集を高橋理事長を中心にしてすすめています。ただ今「思い出」原稿を募集しています。十一月五日(土)七日の全国町並みゼミ盛岡大会で配付・販売する予定です。なっています。

(問) 全国の例に学びながらどのような方向をめざせば重伝建に指定された地区の町には、良い例もあります。町の整備がおこなわれなかつたためにまた静かになったと

町並みを歩いて(その五)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

伊能忠敬銅像のミニチュア像

伊能忠敬記念館のドアを押し込んで入場券売り場にセッティングしてある「伊能忠敬像」をじっくり鑑賞下さい。

このミニチュア像は、東京深川・富岡八幡宮社頭にある高さ二メートル五センチの「伊能忠敬測量への旅・出立の像」の試作品、原像にあたります。

日本地図を背景にして、五歳の忠敬が「杖先方位盤」を手にし力強く測量の旅に踏み出す。



伊能忠敬は測量に先立ち、必ず富岡八幡宮に旅の安全を祈願して出立しました。富岡八幡宮の像は、測量開始二百年を記念して作成され、平成十三年十月二十日に除幕式が行われました。作者は酒井道久先生で、埼玉県立大学の准教授をなさっています。

自分の所にもこんな

町並みがあればと

先日は佐原の町並みを御案内いただきありがとうございました。私共「我孫子の文化を守る会」としてはとても有意義な町歩きができて、佐原の街を堪能することができた楽しい一日でした。

お忙しいところを午後まで案内していただきまして、本当にありがとうございます。また、ぜひ友人と訪ねてみたいと思っております。我孫子にもこんな町並みがあれば、と話しながら帰路に帰りました。

参加者からは「とても丁寧でわかりやすい説明をして

石尊山から見た

佐原の鳥瞰図

与倉屋土蔵を右に折れると、左手の山の入口に石の鳥居が見えます。それをくぐって急な道を百段ほど登ってください。頂上にある社が、雨乞いの神様「阿夫利神社」です。



その木立の間から、少し身を乗り出して眺める佐原の光景は、まさに「小江戸佐原」を一幅の絵にした絶景といえるものです。

佐原囃子を作曲した

豊竹式太夫の墓

石尊山を下りて、佐原小学校体育館へ向かって右手の坂の上に共同墓地が見えます。

右に回って突き当たりの祠の脇の端正な石塔が「豊竹式太夫の墓」です。文政三年(一八二〇年)二月十日という年号があり「佐原連」と土台に刻まれています。晩年のこの時期に佐原に呼ばれてやって来て、佐原囃子の作曲に一役買ったと思われる。



葬つてあげたのではないかと想像します。「佐原囃子」は歌舞伎の下座囃子を基にして、式太夫が作曲したといわれます。

散策しながら「佐原を楽しむ会」はじまる

佐原川(小野川)の流れのようになゆつたりとした哀調を帯びた調べが、京都祇園囃子、神田囃子と並び日本三大囃子の一つと称されている「佐原囃子」なのです。

町並み案内班(越川悦子班)による「佐原を楽しむ会」

町並み案内班(越川悦子班)による「佐原を楽しむ会」が、五月十四日(金)と十九日(水)の二日間をそれぞれ第一回目として開始されました。来月三月十六日までの延べ八回にわたる長期の講座となります。

市内各所へのポスター掲示や市の広報紙等を利用し宣伝につとめた結果、応募者は二十五名余となりました。毎回の充実したテキストをNPO法人「小野川と佐原の



忠敬橋協での学習風景

町並み案内

習うより慣れるで

町並み案内班・新井 勝治

ちょうど十年前になりますが、昌司さんから「ついて来て下さる外国人の招聘事業が始まり、各国の方が沢山佐原を訪問してくるようになりました。その折に町の案内をする機会を与えられたのが、現在のNPOの取組みに参加するきっかけとなりました。



お気に入りのボンネット・バスを背に

市内の高校の教師をしていただきましたので、佐原が重伝建地区に指定されて以来、観光客の案内をする現在も活躍しておられる先輩方の姿は、市内を通るたびに目にしました。退職後はこういう仕事をしてみたいという気持ちはすでに充分にできていました。外国人の案内のない時は、できるだけ旧三菱館にあった会の事務所遊びにでかけるように心がけて、色々勉強をさせていただいていました。

だんだんと慣れて来て、吉田町並みを考える会」の吉田昌司さんをお願いしました。充実したテキストと解説により、受講者は快適に勉強を続けています。以後の予定は、

編集後記

夏前には豪雨で各地に多大な被害があり、七、八月は猛暑で沢山の人が熱中症で亡くなりました。佐原の夏の大祭中もこの暑さは続きました。町並み案内班による「散策しながら、佐原を楽しむ会」がいよいよ始まりました。案内班は、毎月定期的に会議を開き、行動計画を検討しています。

観光案内に感謝の礼状

(その6)

はいました。足に自信のない高齢者もあり、忠敬記念館中心となりましたが、国宝指定と重なり大変有意義な吟行になりました。

最近、非常に見学者の多い当地区観光が、皆様のこのような善意の奉仕に支えられていることを改めて実感した次第です。(山田文化協会俳句部)

でもらえる町になってほしい。佐原のことくわしくわかり良かったです。五人で歩きました。とても楽しかったですよ。佐原囃子が流れているとよかったです。北総の小江戸佐原、いにしへの情緒に感動!

忠敬先生の真の姿を知る

二度目の佐原でしたが、伊能忠敬先生のことを「日本地図を作った方」とぐらいにしか思っていなかったのですが、ガイドさんのお話を聞いて、大変驚きました。

第二の人生を何もしないで暮らすことを恥ずかしく思います。また、佐原へ行きます。